

令和 5 年度 事 業 報 告

1 概 要

令和 5 年度は、新型コロナウイルス感染症が 5 月に感染症法上の分類が 2 類相当から 5 類に移行し、社会経済活動は日常を取り戻してきましたが、当センターにおいては、受注件数、契約金額、会員数は減少傾向にあり依然厳しい状況が続いています。

また、70 歳までの就業確保措置の努力義務化、消費税のインボイス制度やフリーランス法への対応、契約方法の見直し、デジタル化の推進などシルバー事業を取り巻く環境も複雑多様化し、一層難しい舵取りを迫られており、国や県などの動向を注視し、今後のシルバー事業運営に取り組む必要があります。

県内の経済動向は、「一部に弱めの動きがみられるものの、持ち直している。」(日銀松本支店 4 月)とされ、またハローワーク松本管内の雇用情勢について、2 月有効求人倍率は 1.38 倍(長野労働局 3 月公表)と前月を 0.07 ポイント減となり、今後も資源価格高騰などによる物価上昇等の影響により、シルバー事業も引き続き厳しい状況が続くことが懸念されるところであります。

一方、少子高齢化・人口減少が急速に進み、誰もがいくつになっても活躍できる社会づくりが求められている中、地域に密着した就業機会を提供することにより、高齢者の社会参加・生きがいの充実・健康の保持増進などを図りながら、地域の活性化の担い手となって活躍するシルバー事業に対する期待は、今後も高まっていくものと思われます。今後も働く意欲のある高齢者が年齢に関わりなく活躍できる環境整備がますます重要となってきます。

シルバー人材センターでは、会員の働く機会を確保・提供し、会員の経済的な安定や生きがいの充実、健康の維持・増進を図っていますが、会員による地域での様々な活躍により、センターに向けられる地域の期待も一層大きいものとなっています。

しかし会員の減少、後継者不足等から仕事の依頼に応じられないケースや仕事のマッチングに至らない状況が顕在化し、後継者育成を含めた会員の確保や多様な就業機会の確保が全国的にも大きな課題となっています。

こうした状況の中、令和 2 年度に策定した中期計画に基づき、「地域の発展をささえる力強いセンター」の実現を目指し、諸事業の推進に努めてきました。

当センターの令和5年度の実績を見ると、全国で「第2次会員100万人達成計画」の取組みを進めている会員拡大については、病気や加齢を理由とする退会者が増加したことから、会員数は595名（対前年度比24名減、3.9%減）と、5年連続の減少となりました。

令和3年4月に改正高齢者雇用安定法が施行され、65歳までの雇用確保義務に加え、70歳までの就業機会の確保が事業主の努力義務とされるなど、社会状況の変化もあり、5年前と比べ入会平均年齢が3.9歳上昇し71.8歳に、全体の平均年齢も2.4歳上昇し75.1歳となり、会員の高齢化が退会の大きな要因となる傾向が続くことが危惧されるところであります。

契約状況については、請負・委託事業において、猛暑や大雨などの天候不順や物価上昇などの影響を受けるなか、全体としては3億5,865万円（対前年度比287万円増、0.8%増）となり、わずかではあります前年度を上回ることができました。

また本格実施となって10年目となる派遣事業については、着実に実績を重ね7,374万円（対前年度比581万円増、8.5%増）と大きな伸びとなりました。

安全就業については、機会あるごとに安全就業を呼びかけ繰り返し注意喚起等を行った結果、前年度より12件少ない5件（傷害3件、賠償2件）の発生となりました。今後も事故ゼロを目差し、安全就業を最優先課題として事故防止に努めます。

シルバー事業の運営に大きな影響を及ぼす「インボイス制度」や「フリーランス・事業者間取引適正化等法」、「契約方法の見直し」、「デジタル化の推進」など出来る限り事業運営に支障をきたさないよう会員等への制度内容の周知に努めるとともに、理事会で対応方針について協議を重ねたところであります。

以下、令和5年度の個別事業実施状況については次のとおりです。

2 事業の実施状況

(1) 会員の確保・拡大

- 入会説明会を原則月1回実施するとともに、本年度は年度切替えの2カ月間、月2回の実施とした。（14回開催：出席者126名、入会者59名）
- 退会者は83名となり、退会理由の57%が病気・加齢であった。
- 毎月の市村広報及びハローワーク、地元新聞等に入会説明会開催等の情報を掲載した。

- 剪定、草刈り等の会員確保に向けた講習会を開催した。
 - ホームページに新規求人情報を掲載した。
 - ハローワーク主催の「シニア再就職応援セミナー」での説明会を実施した。
- (2) 就業機会の確保・拡大
- 塩尻市長、朝日村長及び両議会議長に対し、事業発注の拡大及び運営補助金等の確保、会員の配分金増額の確保を要望した。(10月)
 - 独自事業の門松づくり、刃物研ぎ及びパソコン教室の積極的な取り組みを行った。
 - シルバーの活動に理解を頂くため、「シルバーの日」を中心に清掃等の地域ボランティア活動を実施した。(10月、21箇所、262名参加)
また、就業機会拡大のため会員によるリーフレット配布を588名の参加により実施した。
 - マスコミに取材によるシルバー活動状況の積極的な情報発信に努めた。
- (3) 安全・適正就業の推進
- 機会あるごとに安全就業を呼び掛け、本年度の事故件数は前年度より12件少ない5件(傷害3件、賠償2件)となった。
 - 病気の重篤化を防ぐため、特定健診等の定期的な受診を呼びかけた。
 - 会員の適正かつ公平な就業機会を提供するため、公共施設を対象に同一就業場所で5年を超える会員の交代募集を行った。
 - 安全・適正就業の具体的取り組みは以下のとおり
 - ・安全就業対策委員会開催1回
 - ・安全衛生委員会開催6回
 - ・安全パトロール実施5回(11箇所)
 - ・職群班班長会開催1回(参加者29名)
 - ・草刈安全講習会1回(参加者23名)
 - ・剪定技能講習会1回(参加者14名)
 - ・安全運転講習会1回(参加者17名)
 - ・「安全就業・適正就業に係る標語」の募集42点
 - ・シルバーだより「あしなみ」(3回)
 - ・安全推進だより「かわら版 安全・安心」5回
 - ・安全ニュース(随時)
 - ・産業医横山先生健康便り(3回)
 - ・安全衛生便り6回

(4) 事業運営基盤の強化

- 公益法人としての適正な運営に向け、定期的に理事会及び班長会等を開催した。
- 10月からのインボイス制度導入や物価高騰等に伴うセンターへの影響など事業運営に支障をきたさないよう、4月から事務費を9%に引上げ、今後の財源確保を図った。
- 10月からの派遣事務の一部移行に伴う必要な諸経費の負担に備えるため、手数料を20%に引上げ、併せて業務の効率化を図った。
- 10月には、最低賃金の改定が行われ、時間単価で40円引き上げられたことから、請負においても本年4月からの単価改正について、市・村をはじめ、継続契約事業所等との協議を行いご理解いただいた。
- 職員の資質向上に向け、各センター職員との交流・研修会へ参加した。
- 安定した事業運営に向け、将来予定される事業費に充てるため、余剰金を特定準備資金として積み立てることができた。
- 会員との意見交換のため地区別懇談会を11地区で開催し、出席者262名（出席率42%）であった。

その他詳細については、次のとおりです。